

# インパクト大でロボコン大賞受賞！

## サレジオ高専「二戦錬馬」

第20回高専ロボコンの関東地区大会で1回戦敗退、審査員推薦で出場した全国大会も1回戦で散りながら、“最高の荣誉”とされる「ロボコン大賞」を受賞したサレジオ高専「二戦錬馬」。その秘密を探るべく取材した。

あずさ みきお 梓

### 「これ作れないかな」の一言がスタート

高専ロボコンは毎年5月にルールが決定するので、各高専はそこからアイデアを出し、秋の地区大会・冬の全国大会に向けてロボットを設計・製作する。サレジオ高専でも、今年のルール「ロボット騎馬戦」をうけてアイデアを出し合い、どんなロボットにするかの検討が行われた。

いくつものアイデアが出たが、きっかけになったのは担当教員の米盛弘信さんと学生の雑談の中で、今年の高専ロボコンのイメージCG（ルールブックの表紙やポスターになったアレである）を見ながら、「これを作れないかなあ」と話していたことだという。



「二戦錬馬」の元になった「CG」。

“ロボットの馬にロボットの武者がまたがって戦う”……全国大会で国技館じゅうをとりこにした「二戦錬馬」は、そんなきっかけで生まれた。誤解を恐れずに言えば、“ビジュアル優先”で製作された機体なのである。

“ロボット騎馬戦”というテーマが発表された時点で、多くの人がイメージすると同時に「いや、でもムリでしょ」と打ち消したであろう姿が提案されるのもスゴイが、それを採

用し、実現させてしまうロボコンメンバーも、またスゴイ。反対意見などは出なかったのだろうか？

「出ませんでしたね」

と即答してくれたのは、チームのリーダーとして「馬」の操縦を担当した、電気工学科3年の竹内洋佑さん。合いの手を入れるように、「武者」を操縦した同5年生の高橋祐太さんも「今年は歩く予定は無かったですけど、あれだけフィールドが平らで、今年歩かなかったら『サレジオ何やってるんだ』って言われますしね」と付け加える。二人ともニコニコ顔だ。

サレジオ高専はもともと毎年のように、2チームのうち1チームは「歩く」ロボットで出場しているのだという。堀やシーソーを渡り、最後はジャンプまでする「ふるさと自慢特急便(2006年)」の時ですら歩くロボットを出したというのだから恐れ入る。2005年(「大運動会」)の時に一度、「今年は勝とう」とA、B両チームが歩かないロボットを出場させたところ、他の高専から「サレジオさん、今年は歩かないんですか？」と聞かれたという話もしてくれた。

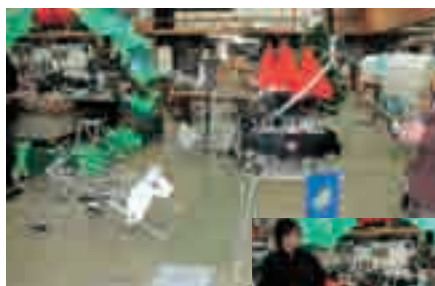
つまり、「二戦錬馬」は周囲から見ても「期待通り」のロボットだったわけだ。地区大会では合体前に転倒し、1本も旗を取れないままで1回戦負け。しかし、推薦で全国大会に出場することができた。

その全国大会では、あっという間に旗をすべて奪われて1回戦負け。

「まず合体して歩いて、旗を1本取る……を目標にしてま



二戦錬馬の「馬(写真左)」と「武者(同右)」。



合体の手順。まず「馬」がかがんで、姿勢を低くする。



「馬」にまたがっていき「武者」。

「馬」が立ち上がって、「武者」のフレームをロックする。ここまでベストタイムで10秒ほどかかるらしい。

